

下紺屋町の歴史⑤ 上田祇園祭

上田市の祇園祭は、天正12年(1584年)6月12日真田昌幸公が新築成った上田城へ入城された日が、土地の祇園祭であったところから、以来祇園祭は「お城祭」と呼ばれ、「本丸長久の祭礼」として、上田藩の重要な行事とされたと伝えられています。

当日は、山車(海野町の「お舟の天王さん」、原町の「お山の天王さん」)、獅子踊り(房山獅子、常田獅子)などの大行列が、三の丸の城主お屋形へ練り込みました。

上田祇園祭は真田氏、仙石氏、松平氏の城主の時代を通じ上田城下にゆかりのある祭で疫病退散祈願、豊作祈願、地域安泰祈願を兼ねたお祭りです。その後、城下町の各町がみこしを繰り出すお祭りに変化し、昭和年代以降は上田市の区域も広がり参加町会も増え上田中心街に多数のみこしが集まる祭になりました。



平成27年祇園祭スタートの様子



修復されたお舟の天王 平成27年

平成18年には参加自治会より選出された祇園祭実行委員により運営される信州上田祇園祭実行委員会が組織され、自主運営(上田市の予算措置は無い)で上田市近隣の夏祭りの先陣を切る祭として、平成27年祇園祭は参加35自治会、宮みこし、樽みこし、子供みこし合わせて78基に山車を含め100基以上が中心街に集まり盛大に開催されました。

祇園祭の起源

疫病の流行により朝廷は869年(貞観11年)神輿3基を送り薬師如来を本地とする牛頭天王を祀り御霊会(ごりょうえ)を行った。御霊会は疫神や死者の怨霊などを鎮めなだめるために行う祭で、疫病も恨みを現世に残したまま亡くなった人々の怨霊の祟りであると考えられていた。この御霊会が祇園祭の起源とされている。

祇園祭という名称は、八坂神社が神仏習合の時代に、比叡山に属して祇園社と呼ばれていたことに由来する。その後明治維新による神仏分離令により神社名が八坂神社となった際に、祭礼名も仏教色を排除するため「祇園御霊会(ぎおんごりょうえ)」から「祇園祭」に変更された。

京都の祇園祭はその強い影響が全国各地の祭礼、とりわけ城下町などの町人が行う祭礼に広く伝播している。

下紺屋町の祇園祭

下紺屋町がいつから祇園祭のみこしを繰り出していたかは定かではありませんが、旧城下町自治会として積極的に参加してきました。祇園祭の起源も鑑み、大星神社内の八坂神社の分社に御幣のお祓いを受け、お城祭の参加と共に自治会内の無病息災を祈願しています。

祇園祭は下紺屋町自治会の最大の行事であり、少子高齢化・核家族化そして都市化により連帯感の薄れる中で子どもから大人まで、世代の垣根を越えた交流を通じて、地域の歴史の共有、社会参加意識、助け合いの精神の醸成をはかる機会となっています。平成26年、27年は他の自治会に先魁け上田城趾へのみこしの入城も行いました。



写真で見る下紺屋町祇園祭



昭和20年代祇園祭(八幡宮)



昭和30年代祇園祭(自治会館前)



昭和49年祇園祭(中央商店街)



平成27年祇園祭(自治会館前)